

令和6年度
第1回いわき市地域自立支援協議会
議事要旨

いわき市保健福祉部
障がい福祉課

会 議 名		令和6年度第1回いわき市地域自立支援協議会		
日	時	令和6年5月30日(木) 午後2時00分から午後3時00分	会 場	いわき市役所第8会議室
出席委員	【構成区分】	(氏名)	(所属・職名)	
	学識経験者	春山 佳代	医療創生大学 健康医療科学部 講師	
	障がい者福祉団体	吉江 路子	いわき市盲人福祉協会女性部会 会計	
		吉村 真澄	いわき市手をつなぐ育成会 監事	
		渡辺 さゆり	いわき地区自閉症児・者親の会 会長	
		長谷川 勇三	いわき市腎臓病患者友の会 会長	
	障がい者福祉施設等	長谷川 秀雄	いわき地区障がい者福祉連絡協議会 会長	
	障がい者関係機関	田中 敦子	(福)いわき福音協会 野の花ホーム所長	
		谷平 耀宗	(福)誠心会 理事兼事務局長	
		石山 紀美江	(福)希望の杜福祉会 グリーンアップルズホーム管理者	
		赤坂 剛	福島県立いわき支援学校 校長	
		渡部 孝男	福島県立平支援学校 校長	
		梅原 佐登志	いわき公共職業安定所 所長	
	市民代表	須藤 勝志	いわき障害者就業・生活支援センター 所長	
		大和田 実利	(福)いわき市社会福祉協議会生活支援課 生活支援係長	
		渡辺 成子	いわき市ボランティア連絡協議会	
欠席委員	学識関係者	石井 亜紀子	独立行政法人国立病院機構いわき病院(内科)	
	障がい者福祉団体	志賀 忠夫	公益財団法人磐城済世会 舞子浜病院(精神科)	
		鈴木 世津子	いわき市身体障害者福祉協会 会長	
		石井 静子	いわき聴力障害者会 副会長	
	いわき市長	内田 広之	※委嘱状交付式のみ出席	
事務局	いわき市	佐々木 篤	保健福祉部長	
		駒木根 通人	保健福祉部次長	
		加藤 高明	障がい福祉課長	
		平子 大樹	同 課長補佐	
		高久 慶子	同 支援係長	
		佐藤 公威	同 事業係長	
		若林 礼佳	同 主査	
		石井 優悠佳	同 事務主任	
		板坂 有真	同 主事	
		木田 翔一	同 主査	
		布施 明	同 主査	
	基幹相談支援センター	園部 義博	いわき基幹相談支援センターセンター長	
		浄土 洋輔	いわき基幹相談支援センター	
		川崎 浩二	同	
		高津 由里子	同	

	地域生活支援コーディネーター 障がい者相談支援センター	坂本 建 永井 正樹 伊藤 洋介	地域生活支援コーディネーター いわき障がい者相談支援センター 同
配付資料	(1) 次第 (2) 席次表 (3) 令和6年度第1回いわき市地域自立支援協議会資料		

議事要旨

○ 委嘱状交付式

委員改選に伴い、新たな委員20名に対し、市長より委嘱状を交付。

○ 令和6年度第1回いわき市地域自立支援協議会

1 開会

2 委員及び事務局紹介

3 会長及び副会長選出

「いわき市地域自立支援協議会設置要綱」第5条の規定により、協議会に会長及び副会長を各1名置き、委員の互選により選出することとなっており、委員より会長・副会長ともに事務局案が求められ、会長に障害者福祉施設等の中から「谷平耀宗委員」、副会長に「長谷川秀雄委員」を提案し、満場一致で承認された。

4 会長挨拶

5 いわき市地域自立支援協議会について

いわき市地域自立支援協議会設置要綱第6条に基づき、谷平会長が議長を務めた。
(『6報告事項』、『7協議事項』も同様)

議事	発言者	内容
いわき市地域自立支援協議会について	事務局	配付資料・P2～5に基づき、いわき市地域自立支援協議会の組織概要や、設置要綱について説明。 (委員からの質問等なし)

6 報告事項

議事	発言者	内容
(1)令和5年度における活動報告	事務局 (高久)	配付資料・P6に基づき、いわき市地域自立支援協議会の令和5年度における活動について報告。 (委員からの質問等なし)
(2)令和6年度いわき市障害者相談支援等事業について	事務局 (浄土)	配布資料・P7～14に基づき、いわき市障害者支援等事業について説明。 (委員からの質問等なし)
(3)令和6年度いわき市地域生活体制強化事業について	事務局 (若林・坂本)	配布資料・P15～20に基づき、いわき市地域生活体制強化事業について説明。 (委員からの質問等なし)

7 協議事項

議事	発言者	内容
(1) 令和6年度の開催予定について	事務局 (若林)	配付資料・P21に基づき、令和6年度いわき市地域自立支援協議会の開催予定について説明。 (委員からの質問、意見等なし)
(2) 令和6年度運営会議及び専門部会等の構成及び目的等について	事務局 (石井、浄土、布施、木田、板坂)	配布資料・P22～29に基づき、令和6年度運営会議及び専門部会等の構成及び目的等について説明。
	赤坂委員	運営会議、それから専門部会等の話だが、運営会議の中に、各専門部会長が参加するということについて、大いに賛成である。 私たち、いわき支援学校の方でも、就労支援部会、児童療育支援部会に、委員として参加しており、そこで意見を吸い上げたものが、運営会議からこの自立支援協議会の全体会に入ってくるというのは、とても有効な手段じゃないかなと思う。 実際に、この自立支援協議会が中心になっていかなければ、いわき市の今の教育であったり、福祉であったりというものが動かないのではないかと危惧しているところである。 現在、いわき支援学校本校が274名、それから窪田校に38名の児童生徒が在籍しているが、生徒数は急増しているような形である。 いわき市内の小中学校においても10年前に比べて、特別な支援を必要とする児童が倍増している状況。 そのお子さんたちをどういった形でサポートしていくかということを考えると、教育だけでは留まっていけないのではないか。 福祉分野と一緒に考えていかなければならないなと思っているところである。 そのため、専門部会の方が運営会議の方に入り、全体会に吸い上げてもらうというのはとても大きいところではないか。

		やはりこういったことをやっていかなければ、地域で子供たちが本当に暮らしていけるのかというふうに考えたときに、私たち特別支援学校で考えていくのではなく、小学校中学校の健常のお子さんたちに考えていただければ、共生社会というものは成り立っていかないなというところで、我々特別支援学校も市内小中学校と交流をしたりといったところに足を踏み入れているところである。 是非、自立支援協議会でも各部会で、私たちも意見をどんどん出していくので、活発に子供たちのために頑張っていければと思っている。
	議長	今、赤坂委員が出された意見について、私の方からも、現状どうなっているのかお聞きしたいことがある。 現在、学校に通われている生徒の卒業後の進路というのは、全数把握でサービスが足りているのか足りていないのかという部分も含めて、どのように市の方で把握しているのか。
	事務局 (浄土)	地域の現状といったところを共有させていただければと思う。一般的に特別支援学校を卒業される方の進路先としては、一般就労、もしくは進学、または障害福祉サービスの利用といったところであると思われるが、児童の放課後等デイサービスなどは増えてはいる中、就労継続支援B型作業所であったり、生活介護事業所というのは、なかなか増加傾向にはなく、比較的特性の強い方の進路といったところが、なかなか定まらないという地域の現状がある。 ましてや児童に対する計画相談も圧倒的に不足している中、進路、指導であったり、サービス利用の調整という障がい児から障がい者への転換といったところでは、大きな地域課題があるため、福祉サービスのみではなく、地域で支えられるような居場所づくり等であったりというような資源開発の動きも必要なのかなというところが、現状、協議会運営会議等でも地域課題として協議しているところである。
	議長	地域共生社会の実現に向けて、皆様で情報共有をして、ぜひ実現に向けて取り組みをしたいと思う。 よろしく願いたい。

	吉村委員	いわき支援学校の赤坂委員から話しがあった支援学校の生徒数がとても多くなっているということについて。 昨年、いわき市手をつなぐ育成会では、南部地区の方の意見もあり、南部地区に小中支援学校を作っていただきたいという要望を、当時の坂本県会議員をとおして、9月に県庁に提出してきた。 また、10月にはいわき市の教育支援室の方に経過報告をさせていただき、一応進み始まったのだが、坂本議員が県会議員を終えられたということで、少し動きは止まっている状況である。 だが、南部地区の教育環境も少しでも良い方向で進めたいということで、いわき市手をつなぐ育成会の方でも、今年度はもう少し進めていきたいと考えている。また何かご報告できたらその折はよろしく願いたい。
	渡辺委員	前回の会議の時に、例えば障害を認定されている方で、サービスを利用している方、されていない方がどのくらいいるのかという質問があったと思うのだが、その後、例えばそれを調べるような方法や、何か手立てをしていただけたのかなと疑問に思っていた。 在宅で何も利用していない方がどのくらいの人数いるのか、どういったサービスが必要なのかということが、やはり自立支援協議会の中では話し合っていくべきではないか。 そういったものを作っていくことが、卒業後の進路を決める際に活用できるのではないかと思う。
	事務局 (基幹・浄土)	実際、実数的なところは、お示しすることは難しいが、例えば障害手帳を所持している人数の中で福祉サービス利用のために必要な受給者証を発行されている数というところを突合せると、おおよその障がい者の中でサービスを利用しているのは大体何%ぐらいかといったところは推し量れるかと思う。 渡辺委員がおっしゃったように、サービス未利用者に関しては、手帳は持っていても一般就労をしており、特にサービスのニーズがないという方も、実は身体障がい等のある方の中では大多数いらっしゃるということもあるかと思われる。 ただ、課題としては、サービス類型によっては不足している資源もあるため、使いたくても使えていない人といっ

		たところ、おそらく渡辺委員も課題があるのではないかなというお考えなのだと思う。 こちらに関しては、やはり障がい福祉計画等だけでは、サービス量の推移だけで押し量れないところになるため、実際どのくらい調整つかなかった、やサービスに結びつかなかった、資源が使えていないという方がいらっやって、その方がどんな困りごとを抱えているかというところを、各種の事業所連絡会であったり、相談支援事業所の連絡会等から、個別の事案、1人の生の声として、協議会までボトムアップできるといいのかなと運営会議の方では考えている。
	長谷川 秀雄 委員	地域会議の居場所づくりについて。とても良い取り組みだと思う。地域で孤立しているのかなと思われる方が、同じ悩みを抱える同士で集まり、楽しく交流できることによって、少し気持ちが上向くようなこともあって、安心感が生まれてくると思う。 私の方でも、別の団体だが、難病関係での集まりをしている。その運営については、結構神経を使うところがあり、楽しいことだけで良いという風にするのか、或いは、悩み事を話し合っても良いという風にするのか。 1度深い悩み相談が始まると、すぐには止まれなくなる。「今日はそのような場ではないです」と止めるわけにはいかない。 抱えている問題を聞いて欲しい方がいた場合、楽しい場として来ている方がいても、悩みの話が始まってしまえば、みんなで話を聞く方向になる。 居場所づくりについては、そういった個別相談も前提とし、みんなで考えるという時間なのか、それとも楽しい時間を過ごして欲しいだけなのか、設定としてどのような方向性にしているのか。
	事務局 (障相・永井)	居場所づくりは、なかなか外に出られない方や他のサービスとの繋がりが無い方を対象としていた。 当初は、個別相談もできるよう、間口を広げた対応を検討していたが、実際に対象者が来てみると、そこまで深く細かい個別相談というのは、あまりなかった。 そういった方に関しては、個別に相談に乗ることも可能であることを伝えている。 それ以外の方は、来ていただいた際に、コミュニケーション

		ョンをとおり、一緒に畑に行き、物を作って収穫するなど、そのような感じで、現在、楽しい雰囲気で行っている。 その中でも生活上の悩みなどは出てくるため、そういった方は個別支援を行っているような状況である。
	吉村委員	北部地域、南部地域の目的・着眼点というのは、ネットワーク構築だったり、居場所づくりだったり、ほとんど同じような感じかと思うが、南部地区の児童発達支援ネットワーク会議というのは、これ全市的に、例えば北部で実施するなど、そういった考えはないのか。 やはり就学前の、障害特性の療育というのは皆、必要かと思う。 構成メンバーの中に、児童療育支援部会長として、わくわくキッズさんやエデンの家さんが入っており、北部地区にあることから、バックアップをもらい、北部でもそういった取り組みはできるのではないかと思った。検討願えたらと思うがどうか。
	事務局 (障相・永井)	児童発達支援ネットワーク会議というのは、もともと小名浜地域に関しては、地域の特性上、非常に児童の相談が多いという特徴がある。 そういった事情や児童発達に関する事業所も多いところで、小名浜地域では、子育てサポートセンターなども含めて、必要性を感じて児童発達支援センターネットワーク会議というものを開催したという経緯がある。 また、ネットワーク会議については、これからもずっと続くというよりは、その中での課題解決や手立てなどが、ある程度確定すれば、だんだんと縮小、終了していくような形になっていくと思われる。 北部の方では、今のところ、そういった会議をやる予定はないが、必要性があれば、検討していきたいと思う。
	事務局 (基幹・浄土)	1点補足させていただく。吉村委員がおっしゃったように、北部地域での取り組み、ということに関してだが、児童療育・支援部会の中に児童通所支援事業所の連絡会があり、そこでは、この南部で行われているネットワーク会議と同等に、その質の向上といったところを目標に、事業所連絡会内での研修企画などを行っている。 実際に昨年度も、エデンの家の猪狩氏、子どもの家の阿部氏が講師となり、より専門的な児童発達支援管理責

	任者の質の向上といったところをテーマに研修企画をしている。 そのため、全市的な枠組みでの質の向上というのは、児童発達支援センターさんが、取り組んでいる状況の中、よりコアに、南部においては、未就学児の流れの整理などをピンポイントで、南部地域の障がい者相談支援センターで取り組んでいるといったような状況である。 広域ないわき市であるため、地域格差のないように、お願いしたいと思う。 他にないようであれば、今後、状況に応じて検討していくということを前提に、この議案について、承認ということとする。
	吉村 委員 議長

7 その他

議事	発言者	内容
次回の地域自立支援協議会開催予定について	事務局	令和6年8月下旬頃に第2回会議の開催予定としている。時期が近付いたら案内文書にて周知を図ることとする。

8 閉会